

# 令和6年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		(担当)	評価				次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標		活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
1 生徒の資質・能力を伸ばす学習指導	① 研究授業(教科) 全教職員が年間2回以上参加	①-1 フレッシュ研修Ⅰ、フレッシュ研修Ⅱ、ミドルリーダー研修、中高 ティームティーチング公開授業等、研修の機会を活用し、効果的にICTを 用いる授業力の向上に関する研修を行う。 ①-2 年2回の相互参観授業月間を設定し、参観シートにより授業研究 を行う。	教務部 進路指導部					
① 分かる授業と基礎基本を定着させる指導と支援 ② 学習意欲を向上させ、学習習慣をつける指導 ③ 効果的な習熟度別授業展開と個別指導の充実	② 家庭学習の習慣がついたと感じる生徒 40%以上	②-1 1週間ごとに週末課題を課し、家庭での学習習慣をつけさせる。また、 実態に応じた補習授業を計画し、積極的に実践する。 ②-2 Teams等を活用して定期的に学習状況調査を実施して、学習に 対しての自己反省をする機会を設け、学習の動機づけを図る。						
④ 国際交流活動をととしての異文化への興味・関心の向上と異文化理解	③ 那賀高校は一人一人の希望・能力・適性に応じた、進路指導 をしている。 「当てはまる」と答えた生徒の割合 90%以上	③ コース選択を見据え、十分なガイダンスを行い習熟度別また科目選択 において少人数による指導を徹底する。さらに補習においては学科の枠 を越えた横断的な授業展開を行う。また、授業の指導法と評価の在り方 について全教職員の共通理解を図り、実践する。	国際交流 委員会					
⑤ 普通科及び森林クリエイト科の特長を生かした教育活動の充実	④ オンライン会議や電子メール等の活用による新しい生活様式に 対応した国際交流活動を相手先担当者と検討を重ねて、実施 する。(年1回以上) また、ニュージーランドでの短期 語学研修を実施する。	④ オーストラリア・セントメアリーズ校との相互交流が中断しているた め、ニュージーランドでの短期語学研修を実施する。また、昨年度教育旅 行での訪問があった台湾高校生と、ICTを活用して交流を行うなど、多く の生徒がグローバルな視点を養える機会を設ける。	教務部 農務課					
	⑤-1 (両学科共通) 生徒の授業満足度 80%以上 ⑤-2 学校農業クラブ活動の充実を図る。(全国大会出場)(7月までに生徒実行委員長を決定)	⑤-1 (普通科) 2年次からコース選択制の授業展開とし、コース選択に おけるミスマッチがないよう、各コースの特長を生かし、一人一人の進路 希望に応じた指導を行う。 ⑤-2 日本学校農業クラブ全国大会での入賞を目指す。令和8年度南四 国大会(全国大会)意見発表事務局の組織体制を確立していく。						

# 令和6年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		(担当)	評価				次年度への課題と今後の改善方針
	重点目標	評価指標		活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
2 心のかよう生徒指導	①-1 欠席数・遅刻者数 前年度の90%以下	①-1-1 学習習慣を確立、個人面談等を実施し、保護者との連携も図りながら、生徒が登校できるように支援する。 ①-1-2 学期毎に、5回を超える遅刻者には、学期末に奉仕活動を実施し遅刻を減らせるように指導する。また、遅刻生徒の入室許可証の提出を徹底させる。	生徒指導・ 教育相談部 寮務部 環境厚生課 家庭科 寮務部					
① 基本的生活習慣の確立	①-2 服装・頭髪検査違反者 全体の15%以下	①-2 全校集会での生徒生活指導講話や服装・頭髪検査を実施する。また、違反生徒については担任・学年団・生徒課が連携して指導する。						
	①-3 生徒が食生活や郷土の食文化に関心を持つ学校行事や授業年1回以上実施	①-3-1 定期健康診断結果に基づき医療機関への受診勧告や保健指導の充実を図る。 ①-3-2 食生活に関するアンケートを実施し、給食検討委員会や食育推進委員会を実施し、食に対する意識を高める。 ①-3-3 地元の伝統的な相生晩茶の茶摘み体験を2年生福祉コースの生徒が行い、希望者には、地域の食材を用いた調理実習を行う。						
② 安全・安心な学校教育の実施と保護者との連携強化	② 交通・生活安全指導 毎月実施	②-1 学校安全の日の登校指導を実施する。また、交通安全教室を年1回以上実施する。さらに、秋の全国交通安全運動期間中での交通安全運動を実施する。 ②-2 「学校安全の日」や薬物乱用防止教室を実施するほか、携帯電話安全教室を実施する。また、地域ぐるみで生徒の健全育成に取り組む中高生徒指導委員会を開き、合同巡視を実施する。	生徒指導・ 教育相談部 寮務部					
③ 個別指導をとおした生徒理解と望ましい集団づくり	③-1 感染症に罹患した生徒数の前年度比減少	③-1-1 感染症や伝染病予防の充実を図るため、年度当初及び必要に応じて随時個人面談や保健調査を実施し、健康で安全な学校生活を送るために必要な情報を集め、学習環境を整える。 ③-1-2 年に4回環境衛生検査を実施し、結果をもとに安全で衛生的な学校生活を送るため、よりよい教室環境を整える。 ③-1-3 保健委員会の活動として、感染症予防のための教室の換気や手洗い・うがい・マスクの励行など啓発する。	環境厚生課 家庭科 寮務部					
	③-2 AEDを用いた心肺蘇生法や救命救急処置法に関する講習会 (年1回以上実施)	③-2 事故や災害に備えて、自他の生命を守るための知識と意識の高揚を図る。						
	③-3 学校生活に関するアンケート調査 (年4回実施)	③-3 生徒のメンタルケアと、いじめ等を早期発見するため、学校生活に関するアンケート調査を実施する。						
④ 特別活動・部活動の更なる活性化と生徒・教職員の信頼関係の強化	④ 球技大会や学校祭等の学校行事 「満足」と答えた生徒の割合 80%以上	④-1 部活動顧問会議で部活動運営上の諸課題について顧問の共通理解を図るとともに、部活動連絡協議会を通じて部活動生徒を指導する。全校一丸となった指導を行うことにより生徒・教職員の絆と信頼関係を強化する。 ④-2 生徒会役員・部活動生徒が活躍し、特別活動関連行事が円滑に実施できるよう、企画から運営まで計画的に指導する。	特別活動課					
⑤ 教育相談活動及び特別支援教育の充実	⑤-1 担任による個別面談を年3回以上実施、夏季休業中の三者面談 全員実施 ⑤-2 スクールカウンセラーとの計画相談実施	⑤-1 教育相談や特別な支援を要する生徒を早期に発見し、生徒理解に努める。保護者とも連携して、信頼関係を構築し適切な対応・支援をする。 ⑤-2 各学年団との情報交換を密にし、スクールカウンセラーにつなげる。また、生徒や保護者からカウンセリングの希望があった場合、緊急度に応じて対応するなど円滑な学校生活への支援体制を築く。	教務部 生徒指導・ 教育相談部					
	⑤-3 「通級による指導」の充実	⑤-3 年2回、6月・12月に「通級による指導」のコンサルテーションを実施し、特別支援教育の充実を図る。						

# 令和6年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		(担当)	評価				次年度への課題と今後の改善方策	
	重点目標	評価指標		活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価		総合評価
3	<p>学びあい響きあい高めあう心の教育の推進</p> <p>① 豊かな人間性と社会性の涵養により自信や誇りをもたせる</p> <p>② 人権意識の高揚と一人一人の人権が尊重される学校づくり</p> <p>③ 情報モラル教育の推進</p> <p>④ 学校・家庭・地域との連携の強化</p>	<p>① 学校行事により、集団への帰属意識や協調性が養われたと答えた生徒の割合 90%以上</p> <p>②-1 校内人権問題意見発表会や人権映画鑑賞会などの行事 年1回以上開催</p> <p>②-2 いじめ等のアンケート調査 年4回実施</p> <p>③ インターネットやSNS等の利用における情報モラルに関する人権放送等の全学年行事 年1回以上実施</p> <p>④-1 学校・家庭・地域との連携の強化を図るために、PTAや人権擁護委員に対して人権映画鑑賞会や校内人権問題意見発表会への参加を依頼し、広報する。</p> <p>④-2 校内の人権に関する行事や部活動の様子について、月1回以上ホームページに掲載する。</p>	<p>① 遠足・文化祭・体育祭や大学短大等への体験入学・企業へのインターンシップなどの行事において、地域住民や中学生との交流を深めることにより、マナーやモラル、思いやりを身につけ、人間性や社会性を高める。</p> <p>②-1-1 生徒の人権意識の高揚のために、校内人権問題意見発表会で身近な人の意見を聞くことにより、様々な人権課題を自分自身の問題として捉え、人権問題を解決する意欲や実践力を養う。</p> <p>②-1-2 映画のストーリーについて考えたり、登場人物の気持ちに寄り添ったりすることによって、自他を尊重する態度を育成できるよう、連携中学校と相談しながら映画を選定する。</p> <p>②-2 アンケート調査結果により、人間関係の把握に努め、助言や支援が必要な生徒には、速やかに個別面談を実施する。</p> <p>③ 人権放送において、インターネットやSNS等に関する情報モラルのテーマを設定する。</p> <p>④-1 保護者・地域・近隣学校を対象にした人権映画鑑賞会や校内人権問題意見発表会の案内を、ホームページへの掲載等を通じて行う。 ・人権擁護委員へ参加を依頼し、連携を強化する。</p> <p>④-2 人権に関する行事を計画したり、ゆずの会の活動を積極的に行ったりする。</p>	<p>特別活動課 進路指導部</p> <p>人権教育部 生徒指導・ 教育相談部 寮務部</p> <p>みらい創造部 人権教育部 生徒指導・ 教育相談部 人権教育部</p>					



# 令和6年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		(担当)	評価				次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標		活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
<p>5</p> <p>G I G A スクール構 想の推進と防災教 育・環境教育の充実</p> <p>① G I G A スクール構 想の推進による学び と働き方の改革</p> <p>② 防災・減災教育の 深化とエシカル教育 の充実</p> <p>③ 校内外の環境美 化活動の推進</p>	<p>①-1 タブレット端末を活用した 授業やキャリアパスポート作成 に向けた体制整備の強化を行 う。</p> <p>①-2 業務負担軽減のための ICT活用を検討し、提案する。</p> <p>②-1 防災避難訓練・講習会等 年4回以上実施</p> <p>②-2 エシカル消費に関わる『服 活』等の校外イベントを年5回以 上実施</p> <p>③-1 ごみの分別が「できてい る」と答えた生徒の割合 90%以上</p> <p>③-2 「教室の環境整備が行わ れている」と答えた生徒の割合 80%以上</p> <p>③-3 SDGsを『知っている」と 答えた生徒の割合 90%以上</p>	<p>①-1 学習支援アプリ活用について、相互授業参観やweb研修等を活 用し、スキルアップを図る。</p> <p>①-2-1 共有フォルダや動画等を活用した研修、教員同士の協働を推進 し、全員が集まった研修を減少させる。</p> <p>①-2-2 ICTの活用について相互研修・研究を行う。</p> <p>②-1-1 防災避難訓練を学校や寮で実施し、生徒の学校防災人材支援 講座への参加を支援する。</p> <p>②-1-2 防災食づくり講習会を通して地域の方との交流を深め、防災意 識の向上を図る。</p> <p>②-2 ホームページやSNS、ポスター掲示により、服の回収や「服活」イ ベントへの積極的な参加を呼びかける。</p> <p>③-1 各生徒が校内でのゴミの分別を徹底できるよう、定期的な環境委 員によるゴミ箱のチェックと分別の呼びかけを行う。</p> <p>③-2-1 環境委員を通して教室の美化・環境整備を徹底し、日々の清掃 活動の徹底に加え、大掃除の際に普段できていないところまで清掃を行 うことで、校内美化活動を推進する。</p> <p>③-2-2 那賀高前バス停留所及び周辺の美化活動に取り組むとともに、 バス利用者にマナーの遵守を呼びかける。</p> <p>③-2-3 節電・節水の啓発及び電気使用量の昨年度比較を周知し、徹 底した省エネ意識の高揚を行う。</p> <p>③-3 身近な行動が、持続可能な社会の形成に関わっていることを、「現 代社会」「家庭基礎」等の教科を通じて学習を深める。</p>	<p>みらい創造部 管理職</p> <p>環境厚生課 エシカル クラブ</p> <p>環境厚生課 生徒指導・ 教育相談部 公民科 家庭科</p>					

# 令和6年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		(担当)	評価				次年度への課題と今後の改善方策	
	重点目標	評価指標		活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価		総合評価
6 連携型中高一貫教育プログラムの推進	① 地元中学校との連携を強化した授業の実践	<p>①-1 中高一貫教育研究委員会を年間3回実施し、5つの各部会においてもそれぞれ年間2回以上委員会を実施する。</p> <p>①-2 行事計画について相互に交流ができるように可能な範囲での日程の調整をする。</p> <p>①-3 進学説明会をそれぞれ3中学校で行う。</p>	<p>①-1 各部会において連携の取組に対する研究テーマを策定する。対面での交流およびリモートでの交流を効果的に行う。</p> <p>①-2 体験入学、オープンスクールまた学校祭において連携中学生と直接交流ができるように計画をする。</p> <p>①-3 進学説明会に参加するとともに、公開授業等において保護者へのPR活動を行う。</p>	教務部 管理職					
② 学校行事における合同事業の充実	<p>②-1 学校行事での合同事業について、ICTの活用や開催方法の工夫などを協議して開催する。</p> <p>②-2 各部活動において、連携中学校との合同練習や練習試合、体験会を実施する。</p> <p>②-3 那賀高校生徒会と連携中学校の生徒会の交流集会 年1回実施</p>	<p>②-1 那賀高祭での連携中学校生の参加について、参加形態や方法について事前の連携、打ち合わせを早い段階で行う。</p> <p>②-2 各部活動で中学生を受け入れ、中学生体験入学時や他の時期にも体験入部を実施する。</p> <p>②-3 那賀高校と連携中学校の生徒会役員による各学校紹介や情報交換・レクリエーション等を実施し、交流を深める。</p>	特別活動課 教務部						
③ 連携中学校への積極的なPR活動	<p>③-1 各連携中学校と生徒同士のオンライン交流 年1回実施</p> <p>③-2 新たなPR活動を企画する。</p>	<p>③-1 連携各中学校とZOOMでのオンライン会議を行い、中学校との交流を行う。</p> <p>③-2 那賀高校「総合的な探究の時間」と中学校「ふるさと学習」との新たな中高連携交流を検討する。</p>	進路指導部 みらい創造部						

# 令和6年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		(担当)	評価				次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標		活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
7 地域に開かれた活力ある学校づくりの推進	① 学校運営協議会において、本校教育活動や地域の抱える課題等について協議し、新しい取組を検討する。	① 学校運営協議会を年3回実施し、特色ある教育活動等を協議し、地域と協働して実施していくことのできる取組を検討する。	管理職					
① コミュニティスクールの導入による地域とともにある学校づくり ② 魅力ある学校行事の実施と保護者や地域の人々への学校公開	②-1 球技大会や学校祭等の学校行事について、「満足」と答えた生徒の割合 80%以上(再掲) ②-2 一般公開される行事(那賀高祭等)について、期日・内容等を早期から広くPRする。	②-1-1 学校行事に生徒が主体的に参画できるよう、生徒会が中心となる取組を検討する。 ②-1-2 参加可能な地域の活動・行事に、ボランティア活動等で参加する。 ②-2-1 一般公開される行事の期日・内容等を地域のケーブルテレビ等を使って広報するとともに、地域の方が参加して楽しめる内容のイベントを企画して実施する。 ②-2-2 那賀高祭等の学校行事や日々の学校生活について保護者の意見を聞く機会を設けられるようICTの活用等について工夫する。	特別活動課 管理職					
③ ホームページ、広報新聞、ケーブルテレビ等によるPR	③ 広報新聞(「せせらぎ新聞」)年3回発行	③-1 HPとは違う良さを考え、CS等で聞き取りをし、地域や保護者が知りたい情報を提供できる記事を作る。 ③-2 那賀高校の取り組みが伝わる記事を作成し広報できるようにする。	管理職 せせらぎ新聞					
④ 地域との連携を密にした学習活動と地方創生の担い手となる人財の育成	④-1 地域産業の体験活動を実施(3回以上) ④-2 地域でのインターンシップを実施(2学年2日間) ④-3 総合的な探究の時間並びに、地域資源活用でのフィールドワークを実施する。(年間5回以上) ④-4 地域コーディネーターの配置(2名以上) ④-5 地域みらい留学のPRを活性化する。(年間12回以上)	④-1 「福祉」「情報」「林業」以外でも実施する。 ④-2 那賀町内のインターンシップ開拓を目指す。 ④-3 総合的な探究の時間、地域資源活用でのフィールドワークで普通科を地域の課題を探求させ、高校目線からの解決策を探す。 ④-4 フィールドワークや地域みらい留学の活動で那賀町のコーディネーターを配置して、地域との連携を図る。 ④-5 地域みらい留学イベントでのPRを通し、校内推進体制の構築を図る。	教務部 進路指導部 農業科 みらい創造部					